

児童館実践事例集

～「児童館ガイドライン」の活動内容に着目して～



厚生労働省

はじめに

児童館は、児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設の一つであり、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする児童福祉施設です。平成23年10月1日現在では、全国で 4,318か所(公営2,673か所、民営1,645か所)の児童館が設置・運営されています。

厚生労働省では、地域における子どもたちの遊び環境の充実と児童館の活性化、地域児童の健全育成の推進が図られることを目的として、平成23年3月に「児童館ガイドライン」を策定しました。各児童館におかれましては、「児童館ガイドライン」を参考に、常に児童館における活動や運営の向上に努めていただくようお願いをしているところです。

「児童館ガイドライン」では、児童館の機能・役割、家庭・学校・地域との連携、児童館長・児童厚生員の職務等について言及するとともに、具体的な活動内容として以下の8点を提示しています。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①遊びによる子どもの育成 | ②子どもの居場所の提供 |
| ③保護者の子育て支援 | ④子どもが意見を述べる場の提供 |
| ⑤地域の健全育成の環境づくり | ⑥ボランティアの育成と活動 |
| ⑦放課後児童クラブの実施 | ⑧配慮を要する子どもの対応 |

このため、本事例集は、「児童館ガイドライン」で示している活動内容にも着目し、各地の児童館における地域の実情に応じた活動内容について、実践事例として取りまとめたものですので、日々の業務のご参考としてお役立ていただければ幸いです。

今後とも、児童館活動の更なる活性化が図られ、児童館が児童健全育成分野における地域の拠点として積極的な役割を果たしていくことを期待しています。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、ご協力をいただきました各自治体の皆様、そして各児童館の皆様に深く感謝申し上げます。

平成25年3月

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 育成環境課

も く じ

－児童館実践事例－

①札幌市平岸児童会館	4
「とよひらっぴーフェスティバル」	《中高校生支援》
②仙台市東四郎丸児童館	6
「チーム東中田っ子」	《ボランティアの育成》
③東京都豊島区立千早児童館	8
「みんなであそぼう「Sケン」」	《身体を動かす遊び》
④東京都八王子市立松が谷児童館	10
「チャレンジキッズ(出張児童館)」	《出張児童館》
⑤京都市梅津北児童館	12
「児童館を活用した取組」	《地域子育て支援の中心施設》
⑥神戸市立六甲道児童館	14
「トンチンカンチン大工さん・【秘密基地づくりと自由木工工作 を通じた父親参加】」	《父親の子育て参加》
⑦愛媛県今治市枝堀児童館	16
「ジャグリングクラブ ENJOY POP CLUB」	《継続的な活動》
⑧福岡市立中央児童会館	18
「J-Kids おもしろハイキング」	《街で遊ぶ・街を遊ぶ》

－児童館関係資料－

○関係法令	20
○児童館ガイドライン	23
○児童館設置運営要綱	31

札幌市平岸児童会館

事業の概要

○札幌市の児童会館で実施している中高生夜間利用【ふりーたいむ】では、バスケットボールやダンス、バンドなど幅広い活動が行われています。

みんなで集まって何かをすることは楽しい。何かに集中する、真剣に取り組む（汗をかく）、共感する、表現する…【ふりーたいむ】は中高生にとって、人格形成に重要なコミュニケーション能力を学ぶ場であり、日常の学校生活ではかかわることがない者同士が出会い、刺激を受けあうことができる居場所となっています。

○このことに着目し、中高生が集まる機会・場所がほしいと要望が出たことをきっかけに、平成23年度から豊平若者活動センターとの共催で、中高生向けイベント「とよひらっぴーフェスティバル」がはじまりました。

※中高生夜間利用『ふりーたいむ』とは…

札幌市児童会館（全104館）では、週に2回（実施曜日は各館で異なる）、中学生は19時まで、高校生は21時まで利用ができます。平成18年度より一部で開設し、平成22年度より103館で実施。活動場所や仲間を求める中高生の居場所となっています。

※『札幌市若者活動センター』は若者と地域を結ぶ拠点として、まちづくり活動やイベントへの参加をサポートします。講座の開設や情報提供などにより、若者の仲間づくりや交流の促進を行っています。

事業の具体的な内容

1) 企画・事前準備

実行委員会を立ち上げ、高校生、青年、職員が一同に集まり、どのようなプログラムにすると中高生が参加しやすいか、あるいは参加意欲がわくのか等、参加者の気持ちになり企画を練り上げた。全体会議は当日までに5回行い、その他の担当をスポーツ・ステージ・バラエティに分け、それぞれ準備を進めました。

2) イベント前日

スポーツ大会の準備・装飾などは、高校生と青年が大活躍。ライブの音楽器材設営は、出演する高校生バンドのメンバーが準備しました。

3) イベント当日

オープニングは実行委員会の高校生が司会を務めました。バスケットボールは中学生8チーム、高校生6チーム、フットサルは中高生混合9チームが参加し、白熱した試合で大変盛り上がりしました。

事業実施のポイント

- ・中高生には、日常の中で、自分たちが主体的になれば、どんなことも児童会館で実現することが可能なのだというイメージをもたせます。
- ・青年ボランティア（児童会館卒業生）の理解・協力を日頃から大切にしています。青年が高校生をサポートし、高校生が青年になった時には次の世代の高校生をサポートします。利用者同士の運営サイクルの構築を意図的に行っています。
- ・大きなイベントだけではなく、音楽ライブやバスケットボール大会、クッキング（お好み焼きパーティーなど）など小さい事業を積み重ねます。イベントの規模が大きくなってもその積み上げが活かされ、参加意欲や中高生が自ら企画し運営する力となります。

「児童館ガイドライン」の「活動内容」ごとの事業の紹介(主なもの)

② 子どもの居場所の提供

高校生が卒業後、次の活動場所となるように若者活動センターで事業を実施しました。また、児童会館は小学生が行く場所というイメージがありますが、中高校生の想いを具現化することで中高校生にとっても児童会館はさまざまなことができる場所・居場所であることを伝えることができました。

③ 保護者の子育て支援

この活動を中高校生と積み上げる中で信頼関係を築き、さまざまな問題に対応しています。特に問題を抱えている中高校生については積極的に実行委員になるよう、または、イベントに参加するように促しました。このイベントの効果だけではありませんが、保護者からの相談も増え、家庭における「頼みの綱」が児童会館になっているケースも少なくありません。音楽ライブについては、保護者や学校の先生の来場もあり、中高校生が児童会館でどのような活動をしているかを実際に見てもらうことで、保護者の理解にもつながっています。

⑧ 配慮を必要とする子どもの対応

来館対象となる生徒の中には、学校に行けない、学校を辞めてしまった生徒、保護者と上手くいっていない家庭など様々な背景があります。日常の運営でも同様ですが、そのような生徒にこそ居場所が必要です。家庭・学校とも連携を取りながら、このような事業は、学校に行かないことで断ち消えてしまった同世代との交流をもつ機会という役割も担っています。

利用者の声など

- ・中学生からは「早く高校生になって、21時まで使えるようになりたい」と声があがっています。また、実行委員会の活動の様子を見て同様の声が多数ありました。
- ・保護者からも好評で、「自分の子どもが大きくなった時に参加させたい」また、「面白そうだね」と嬉しいご意見を多数いただきました。
- ・実行委員会のメンバーはこの事業をとおして、自分たちのやりたいことを実現する主体性を身に付け、児童会館の強力な支援者となってきました。幼児向け体操の作詞・作曲や子育てサロンのスタッフなど幼児・小学生対象事業のサポートを進んで行ってくれるようになっていきます。



児童館のプロフィール

名称：札幌市平岸児童会館

設置主体：札幌市

運営主体（札幌市児童会館指定管理者）

：財団法人 札幌市青少年女性活動協会

開設年月：昭和57年11月

開設時間：8：45～18：00

（日曜日・祝日・年末年始を除く）

火・木曜日は中学生19:00、高校生21:00まで

所在地：札幌市豊平区平岸3条9丁目15-22

紹介等：<http://www.g-kan.syaa.jp/>

